

よきおとずれ

カトリック釧路教会だより

第 25 号 聖母の被昇天 (2023 年 8 月 15 日) 発行



ゆとりと奉仕で…

ヨアキム 川上 剛 神父

教会で働いていると、「忙しそうですね」とか「お忙しいところ、すみませんが・・・」と恐縮そうな皆さんの挨拶を聞いたり、メールを見たりすることが、よくありますが、私はあまり好きではありません。教会ではお決まりの挨拶、やりとりですからと言われればそれまでですが、なんと答えたらよいのか。「いいえ、ひまです！」と言うのも当たっていないし、かといって神父だから「そのふりをしているだけですよ！」という返事もおかしい・・・。戸惑うことが皆さんとの出会いの中でよくあります。



ちなみに、この4月の復活祭に北見地区から7年ぶりに、またこちら釧路地区に出戻って来ました。院長兼地区長職を引き受けての八十路(80歳)の異動ですが、以前、六年間いた所とはいえ、改めて「お忙しいですか」と聞かれなように、心がけていきたいと願っています。これからもなかなか思うにまかせないことが多々あると思います。

ところで、物理的に忙しいということは生きがいみたいなものになるし、心身の健康のためでもあるから結構なことだと言えますが、そのような中でも私は「覚めた心」を持ち続けて行きたいと思っています。忙しさの中に埋没してしまうと、人は時々自分の仕事、やり方を絶対化してしまいがちになるものです。そして、自分とは反対の立場の人がいることが見えなくなってしまうたり、その人たちを切り捨ててしまったりするものです。覚めた心と言うと、冷淡、あるいは無関心というイメージで「冷めた心」のように聞こえますが、心のゆとり、あるいは自己の確立という意味だと思ってもらえたら幸いです。

最近読んだ樋口恵子さん(卒寿を迎えたそうですが)という方が書いた「老いの福袋」(中央公論新社)という本の中で「年を経て 我もなりたし 微助^{ビスケット}つ人」という五七調の一句を紹介していました。味わい深い句だと感じ、心に収めています。八十、九十代の人(彼女は「ヨ

タへロ期」と称しています)には共感できるのではと感じていますが。

忙しい、忙しいと言いながらその実、どこかで自己満足の心情にかまけている(失敗経験多々あり)だけのことで終わらせたくない。自己を失わず、いつもゆとりを持っている人でありたい。そしてそのゆとりがいつも他者への奉仕に開かれている人でありたい。特に、その日その時に目の前に現れる小さき者・貧しき者と共に生きるために、いつも「ひま」を持っている人でありたいと心から念じています。

神の助けのもと皆さんの祈りに支えられ、日々共に歩いていかれたら幸いです。どうぞ、よろしく。皆さんの上に主の祝福と平和を祈りつつ。



聖霊の恩恵に授かる

アシジのフランシスコ 小川 晴清

私が神様に会ったのが20歳代のころ、映画の世界からでした。旧約聖書のアダムとイブ、ノア方舟、モーセの十戒等、そして新約聖書のイエス様の誕生と数々の奇跡(しるし)、裏切り、十字架、復活と、映画で観たのが始まりでした。

その後、妻と一緒に、毎月1回はミサに行くようになり、ただぼうぜんと歌い、唱えて、神父様から祝福を受けるだけの日々が何年も続きました。その時、私の心に残った説教(放蕩息子)に興味を持ちました。そのうちに神父様(亡くなったカリシモ神父様)から本(放蕩息子の本)をいただき、読み込み、最初は本の内容がつかめず、ただバカな息子だなどしか思えなかったものの、その後、内藤神父様との勉強会(妻と一緒に楽しく)で、息子の回心と知りました。

罪を犯すのは人間で、常に赦しの秘跡に授かることは、私にとって生きる力となります。信仰を高め、洗礼と堅信を授かり、人生に希望を持つ事ができました。イエス様は常に私たちと共におり、神様を愛し、人を愛して、キリスト者として皆さんとともに、歩んで行きたいと思えます。

内藤神父様、代父さん、会長さんと信者さんのお祈りと聖霊のお導きに感謝申し上げます。



釧路教会に来て

ゲン・タン・トゥアン（霊名アントン）

皆さん、こんにちは。今、日本は夏、北海道でも蒸し暑いものですね。釧路も夜は少し涼しくなりますが、扇風機を使わないと寝られないです。

私はトゥアンと申します。ベトナム、ドンナイ省から去年の5月、釧路に来ました。引っ越してきてすぐにカトリック教会を探しましたが、なかなか見つからず、ないのか？と思って、ガッカリしました。それでも諦めずに1ヶ月くらいたってから、インターネットで釧路教会を見つけたときは、本当に嬉しかったです。



日本に来る前に、ベトナムの運転免許を持っていましたが、それだけでは、日本では運転できないので、しばらくは毎日曜日、ミサに来るためにバスを使っていたのですが、バスの時間に合わせて来るのが結構、大変でした。でも時々、大湊さんや他の信者さんたちが、送ってくださって本当に助かりました。今は日本の運転免許を持っていますので、自分の車で教会に来られるようになってよかったです。

釧路教会の感想は、神父様と兄弟姉妹の皆さん、親切で優しく、いい人がたくさんいることです。そして私にとって一番、よかったのは、侍者をやらせていただいていることです。釧路教会に来るまで侍者の経験がなかったので、最初は不安でしたが、北川さんから色々教わって、今では一人で侍者ができるようになりました。

今年になって妻も日本に来ることができました。妻の名前はヴィーといいます。日本に来る前に眼の病気になってしまったので、私はすごく心配していました。でもブポ神父様や皆様のお祈りのおかげで、治ったとまでは言えないものの、治療が順調に進んで良くなってきているので、私と妻は心から感謝しております。

これからもずっと釧路で暮らしているかどうか分かりませんが、釧路にいる間はどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

🌻🌻🌻🌻🌻🌻 マウリリオ神父さまもお元気です 🌻🌻🌻🌻🌻🌻



祈り

マリア様の合わされた祈りの手
母アンナから教わった祈り
奉献された神殿での祈りの生活
天使のお告げを受けた時
貧しい馬屋での御子の御降誕
エジプトでの難民生活
エルサレムで三日間 御子を見失った時
愛するヨセフの死
御子を公生活へと見送った時
御子の御受難とその十字架のもとに立たれた時
主の御復活
そして聖霊を待ち望みながら
皆と心をひとつにして祈っていた時



喜びの時も、悲しみ、苦しみの時も、いつも合わされた祈りの手
今も私たちのために祈り続けてくださる祈りの手
私たちをも 祈りへと招いてくださる祈りの手

(桐生聖クララ会より)



編集後記

聖母の被昇天の祭日、おめでとうございます。

ご復活に洗礼を受けられた小川さんが「放蕩息子」のことを書いてくださいました。レンブラントが描いた「放蕩息子の帰還」が有名ですが、一説によると息子の背中に回した手が左は男性、右は女性の手になっており、父性と母性の両面を持つ神の温かい両手であると言われています。この手を見るたび、私もまた放蕩息子の一人であることを時々、思わずにはいられません。

さて、8月6日から15日までは平和旬間です。日本では終戦から78年経っていますが、ウクライナをはじめ世界中の紛争地では日々、いのちや尊厳が脅かされています。一日も早く平和が訪れるよう祈りたいと思います。(M.I)

カトリック釧路教会 〒085-0018 釧路市黒金町12丁目10

TEL 0154-22-5823 FAX 0154-22-5832

教会だより 編集：広報委員会